

毎朝新聞

発行所 毎朝新聞社
〒101-0062 東京都千代田区神田錦町63-2-11
労働のことで困ったら、
今すぐお電話ください。
フリーダイヤル
0120
154-052
全国のどこからでも
かけた地域の連合にかけます。



働く人の暮らしが危ない!

雇用を揺るがす、労働規制緩和

政府はいま、労働の規制緩和を行おうとしている。アベノミクスの成長戦略を
実現するために不可欠なものだと主張されているが、実際は、企業を優先で労働
者が犠牲になることを厭わない、といったものである。



またもや 論議に ホワイトカラー・イグゼ クティブの導入が また議論の俎上につ てきた。労働基準法な どで労働時間は原則1 日8時間・週40時間な どと規定され、それを 超えて働かせるには労 使の協定が必要で、割 増し賃金を支払われね ばならない。この規制 を緩和して、深夜や休 日にどれだけ働いても 割増賃金を支払わない ことを認めるというの 企業側がいうのだ。 導入を進めたいという 労働生産性を引き上げ ることが狙いだ。白 ワートカラーは「労働

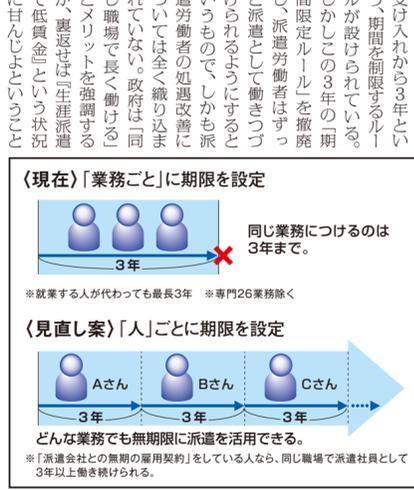
ホワイトカラー・ イグゼクティブ 闘争本部

一旦は消えかけたホ
ワートカラー・イグゼ
クティブの導入が、
また議論の俎上につ
てきた。労働基準法な
どで労働時間は原則1
日8時間・週40時間な
どと規定され、それを
超えて働かせるには労
使の協定が必要で、割
増し賃金を支払われね
ばならない。この規制
を緩和して、深夜や休
日にどれだけ働いても
割増賃金を支払わない
ことを認めるというの
企業側がいうのだ。
導入を進めたいという
労働生産性を引き上げ
ることが狙いだ。白
ワートカラーは「労働

安倍首相は政策方針
演説で「世界で一番企
業が活躍しやすい国
を目指す」と表明してき
た。その裏には「企業
活動にとって邪魔にな
る法律や制度はなくなり
てしまえ」という意図
が透けて見えてくる。
日本が経済成長しさえ
すれば、働く人々の生
活が不安定にならな
い格差が拡大してしま
う。現時点で派遣は
受け入れから3年とい
う、期間を制限するル
ールが設けられている。
しかしこの3年の「期
間限定ルール」を撤廃
し、派遣労働者はす
べて派遣として働きつ
づけるようになる。こ
ういふもので、しかも派
遣労働者の処遇改善に
ついては全く絡み込ま
れていない。政府は「同
じ職場で長く働ける
と、モチベーションが
あがり、生産性もあ
がる」という状況に
甘んじている。

派遣法 企業重視で 労働者無視

企業重視の視点で
派遣法が改正される
としている。派遣労働
は、もともと一時的
な働き方と位置づけら
れ、現時点では派遣
を受け入れから3年とい
う、期間を制限するル
ールが設けられている。
しかしこの3年の「期
間限定ルール」を撤廃
し、派遣労働者はす
べて派遣として働きつ
づけるようになる。こ
ういふもので、しかも派
遣労働者の処遇改善に
ついては全く絡み込ま
れていない。政府は「同
じ職場で長く働ける
と、モチベーションが
あがり、生産性もあ
がる」という状況に
甘んじている。



「ジョブ型正社員に 騙されるな」

「ジョブ型正社員」は、仕事
内容や勤務地、労働時
間などが限定された正
社員のことである。こ
れが解雇ルールの改悪
とセットで議論されて
きたことから、連合は
「解雇しやすすぎる正社員」
を「ジョブ型正社員」
と見なすことに反対し
てきた。例え、会社
が勝手し勤務地を
変更したり、労働時
間を無視してしまっ
た場合、従業員は支

「女性が輝く」
政策で
「女性が輝く」
成長戦略の中には
「女性が輝く日本の実
現」という項目がある。
口当たりはよい表現だ
が、要は人口減少に
よる労働力不足を女性
の力で補おうというの
だ。女性の就業率を
、出産後約6割が離
職するというデータが
あり、育児期にある
年代の就業率が減っ
て、いわゆるM字カー
ブを描いている。こ
の育児期の女性たち
を労働力として活用し
ようというのだ。賃
金を上げるのではなく
ダブルインカムにする
ことだ。世帯の所得を
向上させようという狙
いもある。
「女性が輝く日本の
実現」のために、保
育園の「待機児童解消
加速プラン」や、小
学入学後の子どもが
作り過ぎる居場所
の充実、「等」に
も検討がなされるこ
とについて異論はない
が、一方で、育児期
の女性や介護で就労し
にくい層に向けて「柔軟
で多様な働き方」とし

労働相談ダイヤル
0120-154-052
つながり
今すぐ相談!

外国人まで食い物に?!
建設業界の人材不足の
解消に向けた外国人労働
者の受け入れ拡大を検討
する関係会議が官邸で開
かれた。建設業界は長年
不況の影響で就労人数が
減少し、また若者の高齢
化も問題になっている。
ところが東日本大震災復
興の公共工事や東京オリ
ンピック開催に伴う工事
などにより需要増加が見
込まれ、それを補うため
に緊急対応策を取るとい
うのだ。
労働現場に実習生を受け
入れる「外国人技能実習
制度」でその限界があら
わらなくなって以降、
「成長の成果は自動的に国民全体に
渡り、それを補うために緊
急対応策を取るとい
うのだ。
労働現場に実習生を受け
入れる「外国人技能実習
制度」でその限界があら
わらなくなって以降、
「成長の成果は自動的に国民全体に
渡り、それを補うために緊
急対応策を取るとい
うのだ。

語録
私たちの社会は、
つあります。過去約20年
「成長の成果は自動的に国民全体に
渡り、それを補うために緊
急対応策を取るとい
うのだ。

お天気
今日 明日から
12 18 24
日本海側は雨が降り、大雨に注意。
太平洋側は晴れるが寒い。

中期的取り組み指針
「ガイドライン」
パート労働者の組織化と
労働条件の均等均衡待遇に向けた

「職場から始めよう運動」
取り組み事例集
単組における非正規労働者の組織化促進改善の取り組みと
「地域に根ざした見える」地方連合会の取り組み事例

How to
賃金カーブ
中小労組のための
賃金交渉マニュアル
サイズ:A4判 63ページ
発行年:2000年12月
企画・編集:日本労働組合総連合会
頒価:350円(税込み・送料別)

2014 連合白書
巻頭:2014連合白書の構成
I. 視点と方針
将来の日本社会を見据えて
「働くことを軸とする安心社会」の実現を
II. 現状と課題
東日本大震災の被災地復興・再生の早期実現
持続可能な社会の実現に向けた日本経済の再生
「全世代支援型」社会保障制度に向けた改革の
着実な前進を
III. 2014年春季生活闘争方針
IV. 資料編

「働く人」という視点から、連合が
今いちばん力を注いでいる運動を
わかりやすく解説。
月刊
連合
R E N G O
4月号
食と農と労働組合
アベノミクスが狙う200兆円
年金積立金はだれのもの?
連合税制フォーラム
異議有り! 2014年度税制改革
古賀伸明会長のフェスティナ・レンテ
〜東奔西走〜
毎月25日発行
年間購読料:4,200円(送料込・税込)

「世界で一番企業が活躍しやすい国」には 働く私たちが犠牲になるという 落とし穴が。

「成長戦略実行国会」の危ない動きに注目！

政府は、日本の経済を立て直すため「世界で一番企業が活躍しやすい国」を目指すという名目で、労働者保護ルールを改悪しようとしています。

その一つとして、「国家戦略特区」構想のもと、特区内の企業における解雇や労働時間などの規制を緩和することが検討されました。解雇の自由化や労働時間規制の緩和については、「解雇特区」「残業代ゼロ」との批判を受け見送りとなりました。しかし、再浮上する可能性が高く、まだまだ予断を許しません。そして派遣労働について、雇用が不安定で低処遇のまま大幅に規制を緩和しようとしています。

いったいなぜ、政府はわざわざ「特区」という特例を作ったり、2012年によく労働者保護が強化されたばかりの労働者派遣法を見直したりしてまで、労働者保護ルールを変えようとしているのでしょうか？

狙いは、「働かせ方」「辞めさせ方」の自由化。

これまで政府は「失業なき労働移動」、「多様で柔軟な働き方を実現する」ために、解雇の金銭解決制度や、残業代ゼロ制度、勤務地や仕事内容などを限定した正社員制度などの労働規制緩和を検討してきました。しかしその狙いは、解雇の自由化であり、無償・長時間労働の強要です。

この背景には、業績に合わせて自由に解雇できるようにしたい、残業代など労働者にかかるコストを抑えたいという企業の論理があります。政府が力説する「世界で一番企業が活躍しやすい国」とは、働く私たちの「働かせ方」や「辞めさせ方」を会社が勝手に決められるようにする考え方に他ならず、働く側の意思は全く尊重されていません。

正規も非正規も働くすべての人にかかわる重大問題。

いま進められている労働規制緩和は、労働者の権利を守る最低限のルールまでも見直そうというものです。これまで長い年月をかけて働くすべての人を保護するために整備されてきた基本的な法制度が徐々に骨抜きにされ、会社に都合のよい制度に変えられようとしています。

働く人の9割が雇用労働者であるこの国で、企業優先の制度を認めれば、ただでさえ不安定な雇用環境がさらに不安定になり、非正規で働く人も正社員として働く人も、安心して働くことなどできません。労働者保護ルールの改悪は、働くすべての人に大きな影響を及ぼす問題なのです。



連合は、労働者保護ルールの
改悪に断固反対します！

全国で街頭宣伝を展開！詳しくは連合特設サイトへ。

